

乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり基本計画
－ QURUWA戦略 －

東岡崎駅拠点ビジョン（説明資料）



令和6年3月策定
岡崎市

本資料は、QURUWA戦略を
令和6年3月に改訂した際に、
新たに位置づけた
東岡崎駅拠点ビジョンについて
詳細を説明する資料です。

＼ QURUWA戦略はこちら Ｘ



目次

東岡崎駅拠点ビジョンの追加及び東岡崎駅エリアビジョンの更新	1
東岡崎駅拠点ビジョンとは	2
東岡崎駅拠点ビジョン	3-4
【参考】東岡崎駅拠点ビジョン補足説明資料	5-13

東岡崎駅拠点ビジョンの追加及び東岡崎駅エリアビジョンの更新

QURUWA戦略【令和6年3月改訂】において、東岡崎駅の拠点ビジョンを追加し、エリアビジョンを更新しました。

桜城橋

【追加】 東岡崎駅拠点ビジョン

将来像「まちと人がつながるおもてなしの玄関口」

中央街区

オトリバーサイド
テラス

東岡崎駅

【参考】 東岡崎駅エリアビジョン（QURUWA戦略 本編 P8より）

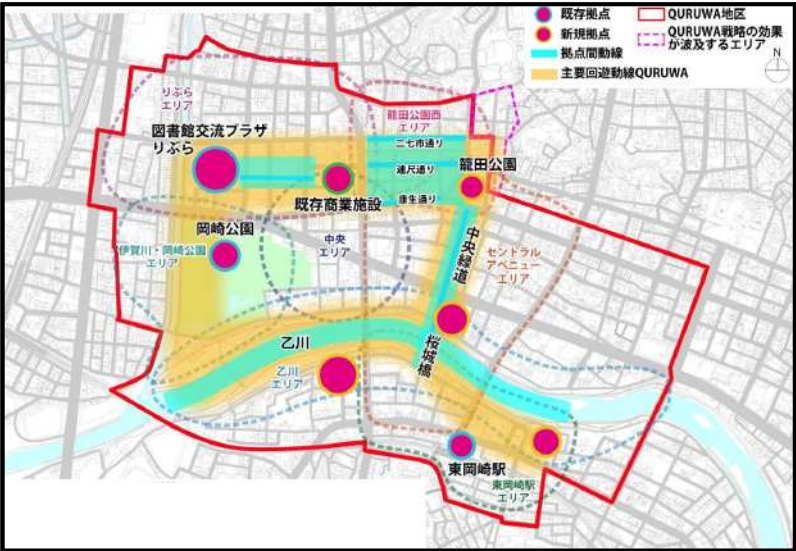
「多世代がつながる
居場所と
来街者に対する
おもてなしの玄関口」

- ・ 市内外へのスムーズなアクセスとウォークブルな暮らし
- ・ 駅周辺の自治会を中心とした暮らしを再生するコミュニティ
- ・ 駅と乙川、駅と六所神社をスムーズにつなぐ歩行者動線や滞在空間
- ・ 子育て世代を中心とした日中の過ごし方を充実させるローカルコンテンツの集積
- ・ 駅周辺の多様な働き方を支える住環境の充実
- ・ 観光客など来街者の玄関口としての優れた景観

東岡崎駅拠点ビジョンとは

令和 6 年 3 月に改訂したQURUWA戦略において、拠点である東岡崎駅に拠点ビジョンを設定しました。

拠点・拠点間動線ビジョン			
各拠点・拠点間動線のビジョンを示す			
拠点	将来像	拠点間動線	将来像
龍田公園	【エリアの価値を高める街のシンボルとしてのオープンスペース】 ・ 街なかの豊かな暮らしを支え、居住環境を向上させる質の高い空間 【多様な使い方の実現】 ・ 民間主体の多様な活用を促進する制度や仕組みの実現 ・ 休日のイベント活用に加え、レジャーや交流あるいはオフィスとして、平日に日常的に利用される空間 【アクセシビリティの向上】 ・ カンセアやサイクルシェアの導入等による多様なモビリティの設置、地下駐車場の活用等による高いアクセシビリティ	りぶら周辺	【質の高い空間】 ・ QURUWAの玄関口としてふさわしい、快適で高質な空間 ・ 岡崎を象徴する顔として、都心のオアシスとして市民の誇りとなり、市民が主役となる「トライアルパーク」 【りぶらと街をつなぐ機能】 ・ 伊賀川・岡崎公園エリアや龍田公園西エリアへとつながる回遊環境とコンテンツ集積 ・ 歩行者優先の安全で快適で開かれた前庭 ・ イベント時はもちろん、日常的に多様な世代が行き交い、交流が生まれる憩いの場 ・ りぶらの4つの機能(図書館、活動支援、文化創造、交流)を活かした様々なコンテンツを楽しむ、めぐる場 【交通結節点機能の強化】 ・ 車での来街を受け入れる一定数の駐車場を確保しながら、バスやサイクルシェアなどの多様な公共交通の結節点
横越広場周辺	【街なかへのお迎え空間】 ・ 東岡崎駅からQURUWA地区へ訪れる人に対するお迎え空間 【街と川の接点としての横越広場の形成】 ・ 川(桜橋・乙川)と街の接点として、乙川の風景を楽しみながら時間を過ごすレジャーや交流の空間 ・ 将来の地先エリアの景観形成モデルとなる空間 ・ 堤防道路の車の抑制と、人と川のつながりの強化。	連尺通り 二七市通り 康生通り	【沿道建物と一体となった道路活用】 ・ 車の通行を制限し、歩行者優先の道路 ・ 沿道建物のコンテンツの歩道空間に寄り添いしによる街の賑わいの再生 ・ 歩道を中心とした道路空間の活用を促進する制度や仕組みの導入 【岡崎ならではのコンテンツの誘致】 ・ QURUWAの中でも、岡崎ならではのコンテンツと人が集まる場所 ・ 商店街再生に加えて、居住や職場の環境整備による、職住近接の街 【歩いて楽しい景観の形成】 ・ りぶらと龍田公園を繋ぎ、歴史を受け継ぐ空間として、市民の誇りとなる景観
太陽の城跡地周辺	【川と地先が一体となったRFの拠点】 ・ 岡崎ならではの岡崎城と乙川のビューを生かした、プレミアムな時間を過ごす場所 ・ 岡崎を象徴する場所、将来の地先エリアの景観形成モデルとして、都市の格を感じさせる空間 ・ 岡崎への来訪者の滞在・活動拠点としてのホテル、コンベンション・バンケット、リバーベース機能(宿泊・交流機能空間) 【市民が都市空間を楽しむための川と暮らしコンテンツの充実】 ・ 川でのレジャーやアクティビティと堤内・地先での消費(飲食・購買)が一体的に楽しめる場所 ・ キャンプ・宿泊・BBQなどを繰り交えた研修企画など、水辺で働く環境	中央線道	【エリアの価値を支える地域の前庭】 ・ 街なかの豊かな暮らしを支え、居住環境を向上させる質の高い空間 【街の象徴となる軸の形成】 ・ 桜橋・龍田公園とともに街の象徴的な景観を形成 ・ 東岡崎駅と街なかをつなぐ軸 ・ 地域の参加により維持管理が図られる地域住民の前庭 【都市の中の自然が豊かで快適な散歩道】 ・ 歩行者優先で自然環境が豊かで快適な都市の中の歩行空間
北東街区	【QURUWAのおもてなし空間】 ・ 川と街が融合した岡崎の象徴的な風景を堪能できる空間 ・ QURUWAへの回遊を促す起点 【川と街との接続】 ・ 「かわ」「まち」を一体的に楽しみながら快適に過ごせる滞留空間 【交通結節点機能の補完】 ・ 東岡崎駅周辺と連携し、自家用車及び自転車利用者と公共交通機関がコネク	乙川	【個性のある多様な河川空間のつながり】 ・ 個性の違うゾーンが乙川でつながっており、それぞれのゾーンの特性に合わせた活用がされている 【日々の気持ちによって、過ごし方が変わる空間】 ・ 生活圏内にある乙川を人々が日常的に活用している空間 ・ 自然を生かした使い方、都会的な活動をする使い方の両方ができる空間 ・ まちなかでありながら、自然による季節の移ろいを感じることができる空間 ・ イベントなど暮らしの中の特別な日にも乙川を利用できる空間 ・ 堤防道路から河川敷への起伏、屋内と屋外、日向と日陰、河川といった多様性のある空間 【地先と河川空間の一体的な活用】 ・ 地先空間、堤防道路、河川敷の一体的に活用することで、日常的な滞留空間を生み出す ・ スポーツ・飲食・宿泊などの可能な滞在スペースを有する河川利用の拠点 【新たな挑戦による文化の創出】 ・ 挑戦を受け入れる仕組みが整っており、これからつくりあげていく空間 ・ 許容度の高い広大な空間であり、様々なことが実現できる空間 ・ 屋外空間で気軽に集える場所があり、人々の出会い・語り合いの場となる空間 ・ 個性的な活用の担い手が多数表れ、新たな文化を創出
東岡崎駅	【全体コンセプト】 ・ まちと人がつながるおもてなしの玄関口 【まちとのつながり】 ・ 人とQURUWAをつなぐ、多様に選択できるモビリティと乗り換えをスムーズに行える交通結節点 ・ 暮らしの質を高め、駅の表情を作るローカルコンテンツの集積 ・ 岡崎の地域資源を活かしたまちと自然をつなぐデザインと乙川に向けた眺望 ・ 回遊性を高め、スムーズにまちへ誘導する、駅の内外で統一された案内サイン ・ 環境に配慮した機能的なデザイン 【人とのつながり】 ・ 北口中央街区・乙川・大所神社と連続的につながるウォークアブルな公共空間 ・ 子育て世代をはじめとした多世代が過ごす居心地の良い広場と、商業店舗等の一体的な空間整備と管理運営 ・ 子育て世代が親しみやすい学び・創造・交流を促す体験型コンテンツ ・ 通勤・通学等のスキマ時間に息づける居場所 ・ 安全安心で快適に過ごせるゆとりある駅まち空間		



【QURUWA戦略における位置づけ】

↑ QURUWA戦略において、図のとおり拠点・拠点間動線が設定されています。

←それぞれの拠点・拠点間動線について、ビジョンを示しており、「まちと人がつながるおもてなしの玄関口」を全体コンセプトとして、東岡崎駅拠点ビジョンを設定しています。

将来像 「まちと人がつながるおもてなしの玄関口」

【まちとのつながり】

●人とQURUWAをつなぐ、多様に選択できるモビリティと乗り換えをスムーズに行える交通結節点

… QURUWAエリアの玄関口としてウォークアブルなまちづくりの実現に寄与するモビリティを充実させるとともに、ゆとりある歩行者動線の確保、歩行支援施設を充実させることにより、乗り換えの利便性の向上を図る

＜ねらい＞ 電車、バス、タクシー、サイクルシェア等のモビリティをさらに充実させることにより、徒歩で行くには遠いと感じていた、駅から少し離れたエリアにも行きやすくなる。また、高齢化が進行する社会を迎え、ますます公共交通機関の充実が求められる中、天候に左右されことなく少ない移動で快適に乗り継げる交通結節点を実現する。

●暮らしの質を高め、駅の表情を作るローカルコンテンツの集積

…岡崎ならではのローカルコンテンツを集積させ、岡崎らしさを強調する

＜ねらい＞ ここでしか食べられない・見られない等の体験価値を提供することにより、駅の魅力・目的地性を高め、集客性を向上させる。

●岡崎の地域資源を活かしたまちと自然をつなぐデザインと乙川に向けた眺望

…特徴あるデザインされた空間・建物を整備する

＜ねらい＞ 岡崎市産の天然材を活用した特徴あるデザインの自由通路を整備し、乙川を感じられる眺望を確保することにより来街者に岡崎らしさを感じてもらうとともに、周辺のまちなみや風景に配慮した建物デザインやカラーコーディネートにより、まちとの一体となった東岡崎駅ならではの駅まち空間を形成する。

●回遊性を高め、スムーズにまちへ誘導する、駅の内外で統一された案内サイン

…駅とその周辺に分かりやすく親しみやすいサインを設置する

＜ねらい＞ 統一されたデザイン・カラーのサインを使用することで来街者を優しくアテンドする。

●環境に配慮した機能的なデザイン

…脱炭素先行地域であるQURUWA地区の拠点である東岡崎駅から環境に配慮した取り組みを行っていく

＜ねらい＞ QURUWA地区の拠点である東岡崎駅で省エネ再エネに取り組む。

【人とのつながり】

●北口中央街区・乙川・六所神社と連続的につながるウォーカブルな公共空間

…駅からまち、乙川、六所神社へ向けて居心地がよく、「思わず歩きたくなる」ウォーカブルな空間を整備する
＜ねらい＞駅・まち・川等が一体となった空間整備を行うことで、まちなかへの回遊促進を図るとともに、他にはない東岡崎駅ならではの、高質でゆとりある公共空間を実現する。

●子育て世代をはじめとした多世代が過ごす居心地の良い広場と、商業店舗等の一体的な空間整備と管理運営

…日常の交流やイベント等で利用可能な、子育て世代を中心に多世代が集う居心地のよい広場空間を整備する
＜ねらい＞夜のまちという印象がある東岡崎駅エリアを、子育て世代を中心に多世代が過ごしやすいまちに変えていくためのシンボルとして、広場と周辺の商業施設を一体的に整備・運営することにより、居心地のよい空間整備を実現する。

●子育て世代が親しみやすい学び・創造・交流を促す体験型コンテンツ

…子育て世代に喜ばれる学び・創造・交流の場をつくる
＜ねらい＞子育て世代をターゲットとした他にはない特徴的なコンテンツをそろえることで、現状通過点になっている東岡崎駅の目的地性を高め、平日昼中及び休日のにぎわいにつなげる。

●通勤・通学等のスキマ時間に一息つける居場所

…電車やバスの待ち時間や待ち合わせ時に落ち着いて過ごせる滞留空間を整備する
＜ねらい＞待ち合い空間を整備することで、人の居場所をつくるとともに、界隈性を創出する。

●安全安心で快適に過ごせるゆとりある駅まち空間

…まちに開かれ、災害時に帰宅困難者を一時的に受け入れできるゆとりある駅まち空間を整備する
＜ねらい＞様々な人が集まる場所として、防災性を向上させた開かれたゆとりある駅まち空間を整備することで、より安全で安心して過ごすことができるまちづくりを進める。

【参考】東岡崎駅拠点ビジョン補足説明資料

本資料は、「東岡崎駅拠点ビジョン」が実現したまちの姿をイメージして日常のとあるシーンを描いたものです。

【まちとのつながり】

人とQURUWAをつなぐ、多様に選択できるモビリティと乗り換えをスムーズに行える交通結節点

私は東岡崎駅で電車からバスに乗り換えて通院している。バスに乗るには3階の改札から1階まで降りる必要があるが、腰を痛めている私でも、エレベーターに乗って移動すればバス停まで楽に移動することができる。駅前広場にはタクシー乗り場もあり、東岡崎駅を起点にQURUWAを回遊する手段がある。また、最近は、期間限定で次世代モビリティが借りられるそうだ。今後はより多くのモビリティから、目的に合わせて移動方法を選択できるようになるかもしれない。



モビリティが充実している交通結節点



画像引用：LUUP公式HPより

次世代モビリティ



サイクルシェア

暮らしの質を高め、駅の表情を作るローカルコンテンツの集積（商業スペース）

今日は仕事の帰り道に駅ビルに寄ることにした。ここには岡崎で採れた食材を使用した地元で人気の高いお店等が入っていて、ここでしか食べられないもの、買えないものが手に入る。来週親戚が岡崎に遊びに来ると言っていたので連れてきてあげよう。



画像引用：カクキュー公式HPより

八丁味噌の産地



むらさき麦の産地



画像引用：ダイワスーパー公式HPより

岡崎産のローカルコンテンツ

【まちとのつながり】

岡崎の地域資源を活かしたまちと自然をつなぐデザインと乙川に向けた眺望

改札を出ると、木や石を使った特徴的な空間が広がっていて心地良い。温かみある開放的な空間が広がっていた。外を見ると近くに川があることが分かり、足を伸ばしてみようと思った。外に出てふと振り返ると、駅がまちの雰囲気に馴染んでいて調和がとれていると感じられた。前からあるまちなみを大切に、新しくできたものがまちに溶け込むデザインが、私はとても気に入った。



画像引用：日立市公式HPより

屋外空間とつながる駅
(例：海の見える日立駅)



画像引用：コードアーキテクス公式HPより

木壁面が80m以上続く自由通路
(例：秋田駅)



画像引用：株式会社オガール公式HPより

景観に配慮したまちなみ
(例：紫波町オガール)

回遊性を高め、スムーズにまちへ誘導する、駅の内外で統一された案内サイン

私の最寄り駅のサインはちょっと洒落ている。駅ビルの中の案内板が落ち着いたグレーカラーで、丸っこいフォントが使用される等すべて統一されているため、分かりやすく親しみが持てる。同じデザインのものがQURUWAのまちにも続いていて、来街者への思いやりが感じられた。



分かりやすいサイン



親しみやすいサイン

【まちとのつながり】

環境に配慮した機能的なデザイン

この頃ゼロカーボンや省エネ再エネが話題になることが多いが、最近オープンした東岡崎駅の駅ビルでも同様の取り組みが行われているらしい。まちの中心で環境に配慮した取り組みが行われているのを見ると、自分もできることをしていこうと思った。



駅に太陽光発電システムを設置
(例：北綾瀬駅)



自然採光
(例：中部国際空港センターピア)



太陽光に応じて色温度を変えるホーム照明
(例：高輪ゲートウェイ駅)

北口中央街区・乙川・六所神社と連続的につながるウォカブルな公共空間

今日は久しぶりに実家の最寄りの東岡崎駅で下車した。川に続く方面に、SNSで見た、公園に併設されたカフェがあるらしい。観光客らしい家族連れも、笑顔で川に向かって歩いている。駅から広がる自然を活かした空間が、長旅の疲れを癒してくれた。



駅から広がる公共空間
(例：南池袋公園)



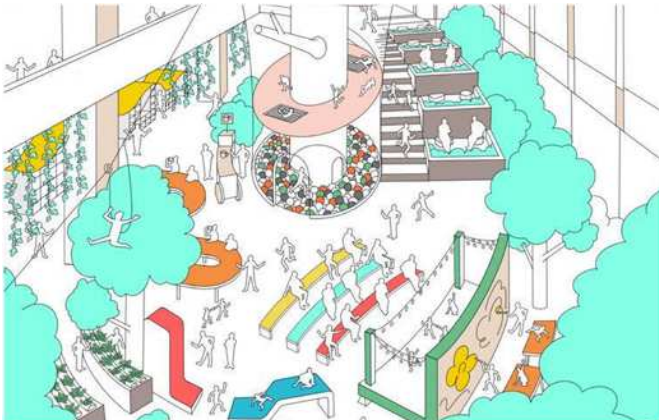
自然を活かしたウォカブルな空間
(例：丸の内仲通り)



歴史を活かしたウォカブルなまちなみ
(例：ひがし茶屋街)

子育て世代をはじめとした多世代が過ごす居心地の良い広場と、商業店舗等の一体的な空間整備と管理運営（広場）

おばあちゃんの目線の手で子どもが遊具で遊んでいる。この広場は一息つける場所がたくさんあり、色々なお店で食べ物を購入・飲食でき、子育て世代の自分たちが過ごしやすい空間が広がっていると感じられる。その一方で、会社へ向かうサラリーマンの通り道でもあり、休憩スペースでもあるようだ。この広場は、様々な世代の人々が居心地良く過ごすことができるみたいだ。



テラスに今日も人が集まる

【人とのつながり】

子育て世代が親しみやすい学び・創造・交流を促す体験型コンテンツ（広場・商業スペース）

3歳になる息子を連れて駅に来た。初めは、子どもが駅に行きたがるとは思ってもいなかったが、息子に遊びに行きたいところを聞くとよく候補に挙がってくる。ここはただ遊ばせるのではなく、学びや創造を体験させられる場。大人にとっては交流の場だ。ここに来るといつも同世代のママたちがいて、困ったことは気軽に相談できる。子育て世代の心のヨリドコロである。



画像引用：日比野設計公式HPより

遊びと学びを組み合わせた空間
（学びの場）



画像引用：特定非営利活動法人グリーンスHPより

余白のある遊び（創造の場）



画像引用：株式会社スマイルズ公式HPより

子育て世代のコミュニケーションスペース
（交流の場）

通勤・通学等のスキマ時間に一息つける居場所（広場）

同じ部活の仲間たちと電車の待ち時間は、いつもこの広場で過ごしている。誰が決めたわけでもなくいつの間にかルーティーンになっている。この広場なら好きなドリンクを片手に座っておしゃべりできるからだ。中には、打合せを行っている人たちもいて、この場所は様々な使い方があるようだ。



画像引用：GYRE公式HPより

一息つける待ち空間



スキマ時間を特別なものに
（例：コーヒートラック）



画像引用：あべの経済新聞公式HPより

広場のシンボル
（例：あべのキューズモール 広場の花時計）

【人とのつながり】

安全安心で快適に過ごせるゆとりある駅まち空間（広場・自由通路）

今度の春に入学が決まっている学校までは、東岡崎駅を経由して行く予定だ。今日は駅の下見に来てみたが、どうやら防災にも対応している駅のようで、災害時に帰宅できなくなった人を一時的に受け入れられる広場や広い通路があるらしい。もし地震が起きたとしても、このような機能を備えた施設が身近にあるのは安心だ。



防災に対応した広場機能
(例：仙台中央通り)



幅が十分確保された通路
(例：新宿駅東西自由通路)

「わたしが描く『ひがおかの未来』」 ～ QURUWA シンポジウムより ～

私は、東岡崎駅エリアで3歳になる息子と夫と暮らしている、今年31歳になるママ。今度の春には、お腹にいる娘も産まれて4人家族になる予定だ。

今日は息子と一緒に、乙川沿いを散歩しに来了。この辺りは歩きたくなる空間が広がっていて心地良いため、息子がベビーカーの時から私たちの散歩ルートだ。私は、この東岡崎駅エリアでずっと暮らしてきたが、自分が学生の頃と比べると、更に便利で暮らしやすいまちになった。特に、東岡崎駅が新しくなってからは、まちが大きく変わったと感じる。

変わったと言っても、全部が全部変わったという訳ではない。新しくなった駅がまちの雰囲気にも馴染んでいて調和がとれているというのだろうか。前からあるまちなみを大切に、新しくできたものがまちに溶け込むデザインが、私はとても気に入っている。

オトリバーサイドテラスを横目に見ながら、ペDESTリアンデッキを渡ると、吹き抜けが見える。駅内にある広場の天井が吹き抜けになっているのだ。初めは、子どもが駅に行きたがるとは思ってもいなかったが、息子に遊びに行きたいところを聞くと、この広場がよく候補に挙がってくる。ここはただ遊ばせるのではなく、学びや創造を体験させられる場、大人にとっては交流の場だ。ここに来ると、いつも同世代のママたちがいて、困ったことは気軽に相談できる。子育て世代の心のヨリドコロである。

その一方で、会社へ向かうサラリーマンの通り道でもあり、休憩スペースでもあるようだ。向こうの方では、おばあちゃんの目線の先で子どもが遊具で遊んでいる。部活帰りの学生が仲間たちとドリンクを片手に座っておしゃべりしている姿も見える。この広場は、様々な世代の人々が居心地良く過ごすことができるみたいだ。

よく会うママ友に挨拶し、次は駅ビルに寄ることにした。ここには岡崎で採れた食材を使用した地元で人気のお店等が入っていて、ここでもしか食べられないもの、買えないものが手に入る。来週、親戚が岡崎に遊びに来ると言っていたので連れてきてあげよう。

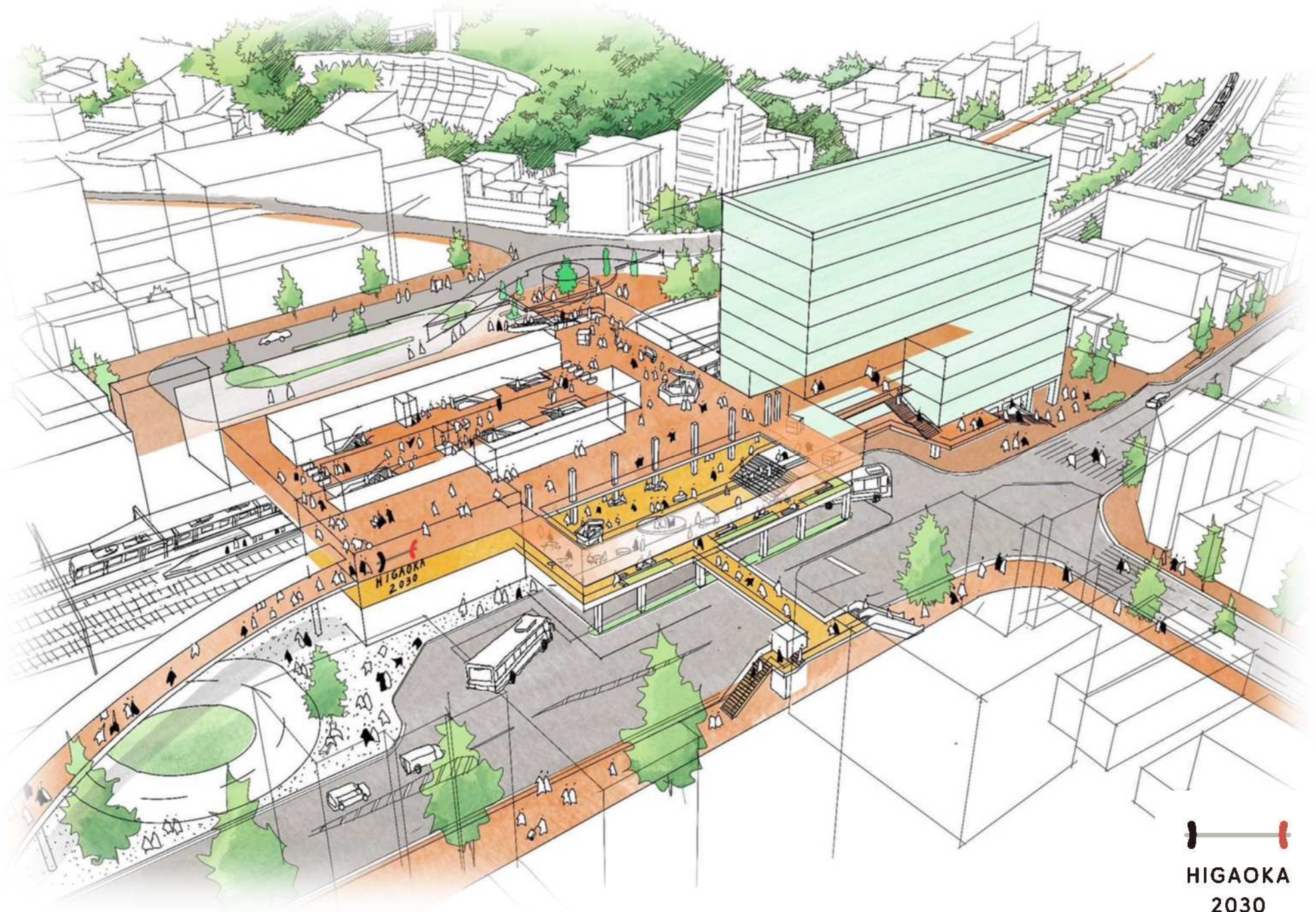
そういえば、この前市外で暮らす友人が、東岡崎駅で下車したと言っていた。改札を出ると、木や石を使った特徴的な空間が広がっていて心地よく、温かみある解放的な空間が広がっていると感じられたらしい。外を見ると近くに川があることも分かり、足を伸ばしてみようと思ったそうだ。それを聞いた私は、生まれ育ったまちを褒められているようで嬉しかった。

川に続く方面には、SNSで話題になっている、公園に併設されたカフェがある。観光客らしい家族連れが、笑顔で川に向かって歩いている姿をよく見る。駅から広がる自然を活かした空間が、長旅を癒してくれるのかな。

「あつ、顔見知りのご近所さんが少し先を歩いているのが見える。この前分けていただいた焼き芋のお礼を伝えようかな。こういった、顔の見えるゆるやかなコミュニティがあることもわたしのお気に入り。」

そんな素敵なおもてなしの玄関口「ひがおか」から、今日もわたしとまちと人がつながる。

再整備完了後の東岡崎駅周辺のイメージ



HIGAOKA
2030

